

## 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175000926		
法人名	㈱ナショナルスタッフセンター		
事業所名	グループホーム松風		
所在地	北見市とん田東町450番地7		
自己評価作成日	平成25年8月23日	評価結果市町村受理日	平成25年10月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action\\_kouhvu\\_detail\\_2012\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=0175000926](http://index.php?action_kouhvu_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=0175000926)

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念を基本に、スタッフは日々のケアが、理念に沿っているか常に確認しながら、共に学びあう姿勢の中で入居者様本位のケアサービスを目指し取り組んでいます。入居者様が過ごされる共有スペースには入居者様が取り組んだ作品や季節の飾りつけ・行事などの写真等にて、穏やかに生活して頂ける様雰囲気作りを努めています。入居者様・御家族様に安心・信頼頂けるよう、スタッフ一同努めています。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成25年9月11日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北見市西部の商業地域に開設された2階建て2ユニットのグループホームで、高齢者共同住宅が併設されています。近隣に協力医療機関やコンビニエンスストア、郵便局等があり、バス停も近く利便性に富んだ地域と成っていますが、町内会が無く、施設長は地域との交流や協力関係を築くべく、隣接地区の町内会に働きかけ、運営推進会議への参加や災害時の協力を得ています。開設時からの理念「四季のある、自由な生活、快適に、やさしい介護、美味しい食事」は日々の介護提供の根本として職員に浸透し、利用者のその日一日を大切に、その人にとって一番良い過ごし方を提供出来る様にと、理念に沿った実践に努めています。施設長は職員教育の一環として外部研修参加を促すと共に、年に一度職員面談を行い、職員のモチベーション向上と就業環境整備に取り組んでいます。又、職員は外部評価の際に作成する自己評価を、振り返りと自身向上の機会として真摯に取り組み、利用者本位のサービス提供へと繋げています。利用者同士、利用者職員との関係も良好で、事業所内は穏やかな雰囲気と成っており、利用者のみならず職員も事業所を第二の我が家として捉えている様子が伺えます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	言葉使いや対応に気をつけ「やさしい介護」、栄養士さんの指導で「おいしい食事」、ご本人の意志を聞き希望に沿う援助をし「自由な生活快適に」行事を通じて「四季のある暮らしをスタッフ一同で行っている。	開設時からの理念を目に付く所に掲示し、日々の介護サービスの振り返り時には、理念に沿っているか確認しながら職員間で浸透を図り、実践に繋がっています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	併設している共同住宅へは、慰問時に見学を一緒にしている。年に何度か入居者、家族、スタッフと地域の方も参加の夕食をしている。	町内会の無い地域ですが、隣接地区の町内会に協力を要請し、運営推進会議への参加や、行事、災害時の協力関係を築いています。中学校の職場体験や、高校生の実習受け入れも行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族を通じて、ご相談を受ける事もある。民生委員の方からの質問にも答えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者様の様子やサービスの取り組みの報告を出席しているご家族・地域の方に伝えている。会議で出た意見は、ミーティングで報告しサービス向上に活かしている。	家族全員に参加要請すると共に、隣接町内会、民生委員、コンビニエンスストア、地域包括支援センター等に声を掛け開催し、状況報告や行事、事故報告等話し合い、議事録は職員間で閲覧し共有に努めています。	今後、定期的な開催と、議事録を利用者家族、参加者と共有し、更なるサービス向上に活用していく事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	保護課・介護福祉課等と、ご家族との関係・ケアサービスについて相談や指示を頂けるよう、電話や市役所に行き協力関係を築いている。ケア会議も行っている。	行政とは常に相談やアドバイスを得たり、情報交換に努め、研修会や、ケア会議に出席する等、連携しながらサービスの質の向上に取り組んでいます。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。玄関の施錠は夜間のみである。(21時～6時)	身体拘束をしないケアのマニュアルを職員各自に配布し理解を促しています。新規職員採用時にはユニットミーティングで話し合い、意思統一を図っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1・2階合同会議などで、研修報告を行い、サービス担当者会議で、個々のケア方法についてもスタッフ間で注意し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の資料を市役所などから取り寄せ回覧している。ご家族からの質問に答えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明後にも疑問点については、その場で理解してもらえるよう説明をしている。不安要素が無いように話をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で意見・質問等を聞いています。又、面会時、行事等でも家族とコミュニケーションをはかり、関係作りに努力している。	3ヶ月毎発行の事業所便りや、家族の面会時に利用者の状況を説明し、希望や要望の把握に努めています。家族と一緒に出かける行事を企画し利用者と家族のふれ合う機会を提供しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1・2階の合同会議や日々のミーティング、業務打ち合わせ、会議などでスタッフの意見や提案を聞いている。	施設長、管理者は日常業務時や会議時に職員の意見や提案に耳を傾けると共に、年一度、施設長と職員の面談を実施し、就業環境整備や職員のモチベーション向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って働けるよう、資料の提供、又、勉強会を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加者は、合同会議で報告をし、それについて、みんなで意見出来たりもしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の集りや、ケアマネの勉強会に参加し、サービスの向上に取り組み、問題事例の解決に役立っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者が困っている事を相談してきたら、それが解決できるよう支援したり、入居者が気軽に自分の事を話せるような対応を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前、入所日ご希望や不安な点など、ご家族とケアマネ・管理者が面談し、ご本人とも話しケアプランに反映している。面会時のたびに話を聞けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前のケアマネとの連携、入所前のご家族とのご相談を受けた時、入所前のご自宅訪問時、入所日の面談時に、ご本人に必要な支援は見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事は行って頂いている。日常の会話や気遣いで、スタッフや入居者同志も良い関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診対応や、日用品、季節の衣類交換等、ご家族は気楽に面会に来て下さり、スタッフとも関係が築けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	民生委員やお友達も面会に来ている。外出時、お墓参りや自宅に帰ったりしている。入居者様が、ご家族と連絡を取りたい時は、ご家族の大丈夫な時間帯に連絡して頂いている。	知人や友人の訪問を歓迎したり、これまでの習慣の継続支援に努めたりと、利用者の馴染みの人や場所の継続に努めています。知人、友人の面会の際には本人の状況や、家族の許可を得る等細やかな配慮に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は、出来るだけ茶の間にて頂き、入居者様同志お話しされたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	買物のお店や公共の場や道路でも声をかけてくださるので、その後の様子などご家族と話すことも多い。他の施設や病院でも会えるので支援している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフが支援しているとき、ご本人からの希望や意向を聞き取り、サービス担当者会議や申し送り時、スタッフで話し合い、ご本人本位で援助できるように対応している。	職員は、毎日の業務時に出来るだけ利用者と話す時間を持つ様に心掛け、会話や様子等から思いや要望の把握に努め、職員間で共有し、実現に向けた取り組みを行っています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス担当者会議時、ケアマネや管理者から説明を受けたり、ご家族の面会時ご本人から聞き取った事を連絡帳や申し送りでスタッフ全員に周知している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の引き継ぎや月1回のサービス担当者会議、連絡ノートを活用し、情報収集し周知援助している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングの時期には、スタッフにモニタリング・アセスメントを行ってもらい、ご家族やご本人とは受診や面会時など希望や要望を聞き、サービス担当者会議で意見を出し合いケアプランの作成をしている。	利用者、家族の希望や要望はケアマネージャーに報告し、毎月のカンファレンス、医療機関等関係者の意見も取り入れ、状況に即した介護計画を作成し定期的に見直しを図っています。	介護計画の短期目標を生活記録に毎日記入しています。今後更に介護計画を反映した生活記録の充実や記録の労力削減に向けて工夫する事を期待します。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活記録に、ご本人の様子を記入し、気づきや対応した方法を申し送りしている。サービス担当者会議で介護計画の変更や新たなニーズについては話し合いケアプランに加えている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との連携を密にし、ご本人の体調や希望に応じて、入浴・排泄方法、食事形態を変更し対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や、入居者様のお友達の面会、外出など支援し楽しめるようにしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医との連絡票を受診時には作成し、連携を密にしている。緊急時など受診時同行なども行っている。	利用者の希望するかかりつけ医を基本に受診は家族対応で状況に応じて職員が同行し、適切な医療に繋げています。訪問看護師による健康管理と24時間連絡できる体制を構築しています。		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護師との連携、すこやかホームの看護師の協力を受けて行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、医療機関に出向き情報交換、電話でも連携している。情報提供書も渡している。退院時、病院から看護依頼書、情報提供書を頂いて対応している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた時、週末期に近い状態になった時は、何度も面談し今後の対応を話し合い、ご本人やご家族の希望や要望を聞き対応している。	重度化や終末期については契約時に事業所で対応できないことを説明し理解を得ていますが、今後医療機関との往診体制と訪問看護師との連携が整えば継続した支援に取り組むことを伝えています。ターミナル研修は参加した職員の報告書の回覧で全職員が情報共有に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応方法をサービス担当者会議や全体会議で周知している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春と秋に入居者様と一緒に火災訓練に参加している。	年2回、定期的に避難訓練を実施しています。5月の総合訓練には地域住民の参加が得られ、役割も明確になっています。全職員が訓練に参加できるよう工夫した確かな行動と意識の統一を図っています。	10月に予定している避難訓練の実施とマニュアルの整備、他の災害を想定した訓練や非常持ち出し品、備品の準備、自主点検の強化を図り、災害対策の更なる構築を期待します。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライドを損ねない声掛けや対応をしている。	利用者一人ひとりにあった声かけや対応を心がけ利用者の尊厳を大切にしたい優しい介護の実践に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が、どうしたいか聞き取り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や排泄・食事など、ご本人のペースに合わせて希望にそって援助している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや帽子など、ご本人の希望を聞いて援助している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の手伝いや、後片付けは出来る方にお手伝いして頂き、一人ひとりに合った食事を提供している。外食の機会を設け、楽しんで頂いている。	食事は管理栄養士が作成するバランスに配慮した献立で、野菜の皮むき、配膳、後片付け、茶碗洗い等の作業を利用者と共に行っています。行事食や外食を取り入れ、食事に変化をつけ楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりに合った食事を、栄養士が作成した献立を元に提供している。水分量は常時記録し、摂取しづらい時は、ゼリー等で代用し摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、就寝前は義歯を洗浄剤を使用している。歯磨きが不十分な入居者様は、仕上げ磨きの支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレを促し、一人ひとりに合った介助・支援を行っている。	生活記録を通して一人ひとりの状況を把握し、利用者の思いを大切に声かけ、誘導、介助を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。車いす対応の広いトイレになっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、牛乳やカツゲンなどを摂取されている。又、一人ひとりに合った下剤の調整・記録し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様の希望を聞き湯温などに配慮し気持ちよく入浴して頂けるよう支援している。入浴日以外でも、汚染・皮膚の状況に応じて入浴・シャワー浴対応している。	入浴は週2回を基本に午前中の時間帯で気持ちよく楽しめるよう配慮しています。又、体調や病状に合わせて清拭、シャワー浴等、適宜な支援に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の空気の入れ替えや、冷暖房を使用し温度・湿度の調整をし、安心して睡眠して頂ける様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が無いようスタッフ間での確認、服薬時再確認の強化を実施している。処方箋をファイルし全スタッフが薬の状況を把握し、服薬後の症状の変化等注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホーム外で、おやつや食事を摂取して頂いたり、イベントを企画し、外出支援にて気分転換して頂くよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様全員で、焼肉バイキングや花見・菊まつり等に出掛けている。又、ご本人とご家族が出掛けたりもしている。	山の水族館、菊祭り見学、外食などの外出イベントを企画し、気分転換や喜び、楽しみに繋げています。	外出機会を積極的に設け取り組んでいますが、日常的に外気に触れることが少ないように思われます。今後は散歩等、短時間でも戸外に出られるような工夫を期待します。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することにより安心される方には、持って頂いている、が、日々確認させて頂いている。その他の方は、無いとか盗まれた当トラブルを避ける為、所持しない様協力して頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される時は内容を聞き、ご本人がダイヤルするか、スタッフが援助する。相手が聞き取りづらい時は、スタッフが代弁する。代筆を希望される方には、スタッフが援助する。又、年賀状も対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには張り紙をして、食卓椅子には個々の座布団を敷き、共有空間には色々な行事の写真を掲示している。その日の気温に合わせて室温管理している。	明るく開放感のある造りで居間、食堂は共用になっており食事をしたり、のんびりと団らんする場として活用しています。季節が感じられる行事や飾り付けをしたり、壁には献立表や行事の写真、利用者が作成した貼り絵等が飾られ、居心地良く過ごせるよう配慮しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	歌番組を見たり、唄を歌ったり、テレビを見たり、入居者様同志お話しをしたり過ごされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や、ご家族で相談して頂き、好みの物や使い慣れた物、又、安全なもの等用意して頂いている。	居室には仏壇やタンス、椅子等、思い出の品々や使い慣れた物が持ち込まれ、本人が安心して暮らせるような工夫をしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分には、わかりやすく工夫をしたり、安全に歩行ができる様手すりも設置し、個々の物には名前を書き、安心できる様工夫している。			